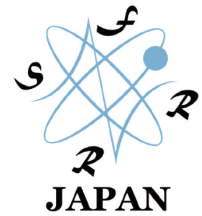


SFRR Japan NEWSLETTER January 1, 2020



Top News

2020年 子年

年頭のご挨拶



理事長 豊國 伸哉
(名古屋大学医学系研究科 教授)



新年を迎え、会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。本年は令和2年(2020年)東京オリンピックの年となりました。1964年の東京オリンピックは臆気ながら記憶にあります。昨年のワールドカップラグビー・バレーに引き続き日本チームの活躍が期待される所です。一昨年、本学会は一般社団法人化され、理事長をそのまま引き継がせていただきました。社会的に認知される団体となったことで、学会や会員の価値をさらに高めていく所存です。現在、2年に一度の理事選が行われております。今後は、30~40歳代の若手がさらにグローバルに活躍されることを期待したいと思います。



また、今年2年に一度のSFRR Internationalの年でもあります。SFRR Internationalは台湾桃園市(台北市のお隣) Chang Gung Universityで3月17日~20日に開催されます。わずか3時間程度でいける暖かで食文化に溢れた心地よい街です。みなさんご参加をお待ちしております。この会では、本学会には入会いただけておりませんがNrf2発見者の山本雅之教授(東北大学)が初のLester Packer awardの受賞者として講演される予定です。

本学会が扱う学問領域(酸化ストレス、レドックス・バイオロジー)は近年その基礎が盤石となり、新たな幅広い領域に向かって発展を遂げつつあります。転写因子Nrf2・活性イオウ・フェロトキシスへの関心の高まり、医工連携として低温プラズマの医療応用などが近年特記されることと思えます。今後も、より一層日本の、そしてアジア・世界のフリーラジカル・酸化ストレス研究の育成・発展ならびにその社会還元のために全力を尽くす所存であります。一方、私は日本人研究者の関連雑誌の査読量がまったく足りないと考えております。よい論文を書くためには、やはり玉石混淆の論文を多量に読み、評価できることが必要でしょう。これも含めまして、今後とも会員の皆様の御協力・御支援を賜りますよう、心よりお願いする次第です。最後に、この学会の特徴は4つあります。1)極めて幅広い興味の研究者が所属、2)海外組織との連携が密で多数の国際学会に参加可能、3)学会誌を複数保有(J Clin Biochem Nutr, Free Radic Res, Free Radic Biol Med, Redox Biol)、そして4)若手への賞が多いことです。末筆となりましたが、本年も会員各位におかれましては、健康と安全に十分に留意され、ますます御活躍になることを祈念しております。

JCBN(学会オフィシャルジャーナル)情報
(Journal of Clinical Biochemistry and Nutrition)

オンラインによる投稿随時受付中!
Online SubmissionのURL

<http://www.editorialmanager.com/jcbn/>



JCBN随時オンライン投稿を受付中

頁チャージは会員特別価格を設定しております。
※特別審査・掲載なども受け付けております。(別途有料・編集事務局宛にご相談下さい。)ページ掲載料には会員割引が適応されます。

Editorial Secretariat for JCBN <jcbn@nacos.com>

◆◆◆ 年次学術集会準備状況 ◆◆◆

第73回日本酸化ストレス学会学術集会

会期:2020(令和2)年6月3日(水)~4日(木)
会場:米子コンベンションセンター BIG SHIP
〒683-0043 鳥取県米子市末広町294
会長:松浦達也(鳥取大学医学部統合分子医科学教授)



開催のご挨拶

令和2年6月3日(水)~4日(木)に鳥取県米子市の米子コンベンションセンターで開催いたします第73回日本酸化ストレス学会学術集会の進捗状況につきまして

ご報告申し上げます。この度、学術集会のホームページ(<https://www.sfrj73-nosj20.net>)を立ち上げました。まだ立ち上げたばかりでトップページと会長挨拶ぐらいしか提供できていない状況ですが、随時情報提供していく予定です。プログラムに関しましては、特別講演として北 潔先生(長崎大学大学院熱帯医学・グローバルヘルス研究科研究科長)に寄生虫、癌細胞におけるエネルギー代謝、寄生虫のイオウ代謝などに関するお話をしていただく予定です。また、シンポジウム1は野口 範子先生(同志社大)、伊東 健先生(弘前大)をオーガナイザーとして「ストレス応答による生体防御の分子機構(仮)」というテーマで伊東 健先生(弘前大)、富田 修平先生(大阪市立大)、今泉 和則先生(広島大)、中井 彰先生(山口大)、斎藤 芳郎先生(東北大)の5名にご講演いただく予定です。シンポジウム2は今井 浩孝先生(北里大)、山田 健一先生(九州大)をオーガナイザーとして「新しい酸化脂質解析法を用いたオキシリビッドバイオロジー研究(仮)」というテーマで内田 浩二先生(東京大)、山田 健一先生(九州大)、板部 洋之先生(昭和大)、仲川 清隆先生(東北大)、熊谷 剛先生(北里大)の5名にご講演いただく予定です。さらに、今回は日本NO学会との合同学術集会という形式での学会開催となりましたので、合同シンポジウムとしまして、内藤 裕二先生(京都府立医大)、上原 孝先生(岡山大)をオーガナイザーとして臨床に関連したテーマでのシンポジウムを企画していただいているところで、合同学術集会ですのでランチョンセミナーは2日間とも2会場と予定しております。年明けには一般演題、ポスター演題の募集も始める予定です。奮ってご応募いただければ幸いです。また、懇親会(6月3日に開催)はANAクラウンプラザホテル米子で開催する予定です。ご宿泊はこちらでは特別確保していません。米子駅周辺にビジネスホテルがございますので、各自お早めにご予約いただければと思います。スタッフの人数も少なく進捗がやや遅れ気味になっているかもしれませんが、本学術集会が皆様方にとって実りのある会になりますように精一杯準備を進めてまいりたいと思います。ご協力のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

◆◆◆ 役員改編について ◆◆◆

2018年4月2日の法人化後、本会は本年2020年6月に開催される年次学術集会で2年を迎える事となります。

現役員(理事・監事)・代議員は第3回代議員総会(2020年6月)終了後、全員、任期満了となる為、2019年8月~12月にかけて代議員・役員選挙の公示を行いました。その結果、

理事立候補者29名、代議員立候補者87名となりました。いずれも定数に満たなかった為、投票は行わず、代議員は資格を満たした立候補者が当選者となり、理事は資格を満たした立候補者が候補者となりました。



上記理事候補者は、6月米子で開催の代議員総会にて決議予定です。いずれも任期は、2020年度代議員総会終了後から2022年度代議員総会終了までとなります。

詳細は、学会HPを参照ください。
<http://sfrj.umin.jp/election/index.htm>



～ 2019年度 各賞受賞者 喜びの声 ～

第72回学術集会(2019年6月北海道札幌市開催)において、選考委員会による厳正な審査を経て、理事会・代議員会の承認の下、下記受賞が決定いたしました。受賞者の皆様の今後の益々のご活躍を祈念いたします。



「2019年度 学会賞 を受賞して」

下川 宏明

(東北大学大学院医学系研究科 教授)

この度は、歴史と伝統のある本学会の2019年度の学会賞を受賞させていただき、大変光栄に存じます。豊國伸哉理事長、選考委員の先生方、そしてご推薦いただいた東北大学の赤池孝章教授に心からお礼申し上げます。また、長年、私の研究と一緒に遂行してくれた多くの教室のメンバーに感謝いたします。

私は、九州大学時代以来、冠動脈攣縮を第一の研究テーマとして約40年間、基礎研究と臨床研究を行ってきました。その中で、冠攣縮の分子機構として、平滑筋の分子スイッチの役割を果たしているRho-kinaseの発現や活性の亢進が中心的な役割を果たしていること、Rho-kinaseの発現亢進には冠動脈外膜の炎症性変化が重要であること、Rho-kinaseの活性化を中心とした冠動脈の機能異常は冠微小血管まで及び、予後に大きな影響を与えることなどを明らかにしてきました。次に、米国留学以来、第二の研究テーマとして血管内皮機能について研究を行ってきています。血管内皮は内皮由来弛緩因子(EDRFs)と総称される弛緩因子を産生・遊離して血管平滑筋を弛緩優位に保ち、動脈硬化の発生・進展を抑制する重要な役割を果たしています。EDRFsには主に3種類あり、第一のProstacyclin、第二の一酸化窒素(NO)に続く第三の内皮由来過分極因子(EDHF)の本体は長年不明でした。我々は、2000年に、EDHFの本体の一つが、内皮から生理的濃度で産生される過酸化水素(H₂O₂)であることと同定し、約20年経過した現在では広く受け入れられています。NOもH₂O₂も酸化ストレスの見地から論じられることが多いですが、血管内皮機能という観点からは生体の恒常性維持に必須の分子であることは明らかです。こうした活性酸素種の2面性には非常に奥が深いものを感じます。加えて、Rho-kinaseとNOが互いに抑制関係にあることも明らかになってきています。この辺りの知見は、学会賞受賞記念の総説でご紹介しましたので、ご一読いただければ幸いです。

昨年の8月23日に、米国留学以来の私の研究の恩師であるPaul Vanhoutte 教授が78歳で世界されました。Vanhoutte教授は、血管内皮研究の世界のリーダーであり、私の血管生物学の基礎は全てVanhoutte教授からご指導いただきました。今回の学会賞の受賞をいつもの笑顔ユーモアできっと天国から喜んでいただいていることと思います。今後も、微力ながら本学会の発展に貢献していきたいと存じます。今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

「2019年 学術賞 を受賞して」



中西 郁夫

(国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
放射線医学総合研究所 上席研究員)

このたびは日本酸化ストレス学会の学術賞を受賞することができ、大変光栄に存じます。名誉理事長の吉川先生、前理事長の小澤先生、豊國理事長をはじめ、選考委員の先生方に厚く御礼申し上げます。また、日頃お世話になっている先生方や研究室のメンバーに心より感謝いたします。

私は、1999年11月からポスドクとしてお世話になっていた国立医薬品食品衛生研究所の宮田直樹先生、福原潔先生の研究室で、抗酸化物質の研究に携わる機会をいただきました。抗酸化物質によるラジカル消去反応は、抗酸化物質からラジカルへの水素原子(水素ラジカル)移動反応で、「一段階の水素原子移動」と「電子-プロトン移動」、「プロトン-電子移動」の3種類の反応機構が知られています。受賞対象となった研究では、どの反応機構で反応が進むかは、反応環境が非常に重要であることを明らかにしました。例えば、反応系に金属イオンが存在すると、電子移動反応が有利になるだけでなく、反応が顕著に速くなります。逆に、細胞膜中のような環境では、一段階の水素原子移動が起こりやすくなります。最近では、水に不溶な2,2-ジフェニル-1-ピクリルヒドラジルラジカルの水溶性に成功し、水溶液中での反応環境の影響の解明を目指しております。

このように、ラジカル消去反応の反応環境は非常に重要ですが、研究を進めていく上で環境も極めて重要です。そういう意味で、日本酸化ス

レス学会は、医学や生物学、化学の専門家が一堂に会するという極めてまれで素晴らしい環境です。今後は、自らの研究をさらに展開していくことはもちろんですが、この素晴らしい環境に、若手をどんどん引き込み、本学会のさらなる発展に貢献させていただきたく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

「2019年 学術奨励賞 を受賞して」

三田雄一郎 (同志社大学生命医科学部)

名誉ある学術奨励賞を受賞でき大変光栄に存じます。理事長の豊國伸哉先生、学会長の稲波修先生をはじめ審査いただいた先生方に感謝いたします。また、本研究を行うにあたり多大なご指導を頂いた同志社大学野口範子教授、東北大学斎藤芳郎教授をはじめ諸先生方に感謝申し上げます。今回、noncoding RNAによる翻訳制御をテーマに発表をさせて頂きました。GPxのような特殊な翻訳形式を示す抗酸化タンパク質の制御に新たな視点を提供できるよう今後も研究を積み重ねていきたいと思っております。今後ともご指導ご鞭撻の程よろしく申し上げます。

岡 真優子 (京都府立大学大学院生命環境科学研究科)

私もこれまで長年にわたって心血管疾患や細菌感染症と広い分野で酸化ストレスを研究しており、現在はマクロファージのNO産生を指標とした自然免疫の新しい炎症機構の解明にチャレンジしております。これまでになく苦勞の絶えない本研究で受賞でき大変励みになりました。これからは先輩方にご指導を頂きながら学生らと共に酸化ストレス研究の発展に寄与できればと考えています。この度は学術奨励賞に選出頂きましたことを改めてお礼申し上げます。

平田 祐介 (東北大学大学院薬学研究科)

この度は、日本酸化ストレス学会学術奨励賞を授与頂き、誠に光栄に存じます。学会理事長の豊國伸哉先生をはじめ、第72回学術集会会長の稲波修先生、選考委員の先生方、また、平素よりご指導を賜っております、現所属研究室教授の松沢厚先生に、厚く御礼申し上げます。ROS等の活性分子種が司る細胞内シグナル伝達制御機構の不思議に魅せられ、研究に精進してまいりました。本受賞を励みに、本学会で継続的に成果を発表できるよう、今後もより一層研究に励む所存ですので、ご指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



(左から 豊國理事長・三田・岡・平田・藤井選考委員長)

学会賞・学術賞・学術奨励賞の公募

学会賞・学術賞は、毎年年初より公募、学術奨励賞は、年次学術集会演題公募の際に募集いたします。詳細は、学会HPをご確認ください。

学会賞 おめでとう! 学術賞



(左から 豊國理事長・下川・松浦選考委員長)



(左から 豊國理事長・中西・松浦選考委員長)

*** 受賞者には ***

各受賞者は年次学術集会の際に発表され、賞状並びに副賞を授与。学会賞、学術賞については、受賞者は受賞翌年の学術集会においてその業績について受賞講演を行い、また、受賞より1年以内に学会誌JCBNに総説を寄稿することとなっております。また、受賞記念の楯が講演時に授与されます。

学術奨励賞・八木記念学術奨励賞の記念楯は後日郵送されます。

「八木記念学術奨励賞」を受賞して
寺崎 正彦先生 (筑波大学大学院消化器内科)



この度は、大変名誉ある八木記念学術奨励賞をいただきましたことを大変光栄に感じております。日本酸化ストレス学会理事長の豊國伸哉先生をはじめ、選考委員の先生方ならびに関係者の皆様

～ High Citation Award ～

本学会オフィシャルジャーナルであるJournal of Clinical Biochemistry and Nutrition (JCBN)において、前年度第一著者として受理された論文の中で、引用が多く、IF 向上の為に貢献のあった論文に授与するものです。第3回目である2019年度は、下記の2件に授与されました。

2019年度受賞者: 以下2件

- (1) 総説: 11/22件 Tasuku Hirayama
(Chemical tools for detecting Fe ions: p39-48, Vol.60(1), 2017)
- (2) 原著: 18/34件 Akira Ando and et al.
(Comparison of the gut microbial community between obese and lean peoples using 16S gene sequencing in a Japanese population: p65-70, Vol.59(1), 2016)



学会報告

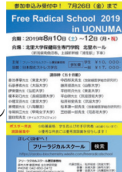
【Free Radical School 2019を開催いたしました】

永根大幹(麻布大学)
吉原大作(兵庫医科大学)

会期: 2019年8月10日～11日
会場: 北里大学保健衛生専門学院

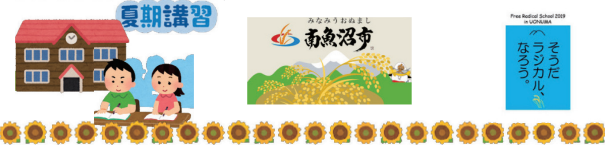


連日の厳しい暑さのなか、毎年恒例のFree Radical Schoolを北里大学保健衛生専門学院において開催いたしました。本年は、36名の参加者が南魚沼の地に集まり、和気藹々とした雰囲気の中で、学びを楽しみました。講師には、日本酸化ストレス学会内外から12名の講師にお越しいただき、フリーラジカルや酸化ストレスに関連する基礎から臨床までの最新知見をお話しいただきました。また、第72回日本酸化ストレス学会学術集会(札幌)において学術奨励賞を受賞した若手研究者からもご講演いただきました。さらに、開催地新潟の地元企業である八海醸造株式会社から倉橋敦先生(研究開発室室長)にお越しいただき、「世界に誇る日本の伝統甘味飲料麹甘酒の魅力」と題してご講演をいただきました。学生によるポスターセッションも大いに盛り上がり、加藤千博さん(麻布大学)、山口和花さん(麻布大学)が最優秀演題賞を受賞しました。



～Free Radical School 2020のご案内～

来年度は、2020年8月9日(日)～10日(月・祝)に開催する予定です。お盆休み前まで都合をつけやすい時期だと思います。多くの皆様のご参加をお待ちしております!開催地は本年度と同様に南魚沼を予定しています。



2018年度学会賞・学術賞受賞記念講演

第72回年次学術集会にて行われ、記念楯が授与されました。



(学会賞: 今井浩孝) (学術賞: 斎藤芳郎・西田基宏)

年次学術集会報告

第72回日本酸化ストレス学会学術集会



会期: 2019年6月27日(木)～28日(金)
会場: 北海道立道民活動センター かでる2・7
会長: 稲波 修
(北海道大学大学院獣医学研究院 応用獣医学講座 教授)

このたび20年ぶりに札幌市において第72回日本酸化ストレス学会学術集会を2日にわたって開催いたしました。大会企画として特別講演として九州大学大学院医学研究院の住本英樹先生並びに、帝京大学医学部の三牧正和先生をお迎えし、それぞれ「活性酸素生成酵素NOX/DUOXと酸化ストレス関連疾患」と「ミトコンドリア病の多様性」の最新の知見についての貴重な講演をしていただきました。シンポジウムは「酸素が糾う病態と疾患-細胞死・傷害、炎症、再生、代謝-」と「ミトコンドリアと酸化ストレス・関連疾患」の2テーマで延べ11名の著名な先生方をお招きし、有意義な講演と活発な討論が行われました。また、今回、会員企画としてワークショップとして「大気汚染による活性酸素種の生成と生物応答」と「生体イメージングの基礎と治療への応用」の2テーマで開催いたしました。また、恒例の受賞講演、YIAセッション、2つのランチョンセミナーに加えて、一般講演ならびにポスター発表もほぼ例年通りの演題数を行うことが出来ました。学会参加者数も当初の予想以上の300名を超え、多数の方々をお迎えし、盛況のうちに終了することができました。情報交流会は京王プラザで初日に開催し、多岐にわたる分野の酸化ストレス研究の和やかな交流の場となったのではないかと考えております。最後に参加者いただいた先生方と多大なるご援助いただきました関係各位の皆様にご場をお借りして深く感謝申し上げます。



関連学会 開催案内

日本酸化ストレス学会 東海支部 第8回学術集会

日時: 2020(令和2)年2月22日(土)13:00-17:00
会場: 岐阜大学サテライトキャンパス多目的講義室
https://www1.gifu-u.ac.jp/~gifu_sc/src/

実行委員長: 永澤澤子(岐阜薬科大学)
*開催期間中に2019年度第2回理事会を開催予定です。(会場別途)

東海支部における第8回学術大会の演題、参加者を募集いたします。学部学生、大学院生はじめ研究者の皆様方の多数のご参加をお待ちしております。

第34回日本酸化ストレス学会関東支部会

タイトル: 人生100年時代を生きる ～健康長寿と酸化ストレス研究～

日時: 2020年2月29日(土)9時から17時30分まで
会場: 芝浦工業大学芝浦キャンパス
会長: 李昌一(神奈川歯科大学 教授)
主催: 日本酸化ストレス学会関東支部会
<http://sfrrj-kanto.blog.jp/>



本年の支部会は初めてに参加の方でも興味を持っていただけるよう、他学会とのジョイントセミナーなど企画をふんだんに用意しました。酸化ストレスに興味のある方であればどなたでも参加できますのでご参加ください。奨励賞も準備していますので、学生含め多数の応募をお待ちしています。

